



イヌはなぜ毛がわりするの

寒くなると、暖かい冬毛に

人間は、暑い夏にはうすいシャツや半ズボンを身につけます。寒くなると、だんだん厚着になり、冬は、さらに、暖かいオーバーなどを重ね着します。

イヌやほかの動物たちも、暑いときも寒いときも、同じ毛皮ではたまりません。そこで、外の気温が寒くなるころには、夏毛がぬけ、暖かい冬毛にかかります。ちょうど人間が、下着とコートを重ねるようなものです。イヌの冬毛は、びっしりすき間なく皮ふをおおう、やわらかい短い毛と、さらに、長いごわっとした毛がまじっています。

毛がわりは、太陽の光が命じる

この、冬毛にぬけかわるように指示を出しているのは、太陽の光なのです。9月の秋分の日あたりから、ぐんぐん短くなっていく日照時間の変化が、イヌの体の脳下垂体、甲状腺などにはたらきかけて、冬の毛に生えかわるホルモンを出させるのです。

ぎゃくに、春先のだんだん日照時間が長くなることが、イヌの体に冬毛から夏毛に変える、という指示を出す役割をします。すると、冬毛がぬけはじめ、皮ふにすき間の多い、すきすきの生え方で、夏毛が生えてきます。目のあらい涼しい布地の洋服に、着替えるのと同じことです。

日照時間の変化は、動物の毛がわりだけではなく、キクなどの花が咲く時期にも影響をあたえます。これを利用して、人工的に日照時間を変えて、花の咲く時期を調節することなどが行われています。（監修・今泉 忠明）

